

平成 30 年度 第 2 回厚木市地域公共交通会議 概要

開催日時	平成 31 年 2 月 22 日（金）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
開催場所	厚木市役所本庁舎 3 階 特別会議室
出席委員数	13 人（全 16 人中）
傍聴者数	0 人
会議の経過	<p>1 開会 事務局</p> <p>2 あいさつ 会長</p> <p>3 議題</p> <p>(1) バス利用環境改善事業に伴う平成 30 年度バス停上屋設置について ≪資料に基づき事務局が説明≫</p> <p>【内容】 バス停上屋等設置事業の継続整備として、「湘北短期大学前バス停」、「厚木高校前バス停」、「六堂辻バス停」に上屋及びベンチを設置する事業報告を行い、確認がされた。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道の有効幅員が 2 メートルとあるが、民地の協力を得て有効幅員 2 メートル確保した場合でも上屋の設置は可能か。 ⇒可能である。上屋の柱を民地の協力を得て設置した事例はある。 ・ 5 ページの市民意識調査の結果で「バス待ち環境の向上」が一番多い結果になっているが、ベンチ及び上屋が増えていくことを楽しみにしている、といった意味なのか、それともまだまだ足りないといった意味での回答なのか。 ⇒回答項目には、運賃の見直しや運行本数を増やして欲しいなどもあり、バス交通に対して市民の方が望んでいる項目の一つだと思う。 <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用している方々に安全に、快適に利用していただくこと。また、今はバスに乗っていない方々が、今後バスを利用していただく時に、バスのベンチや上屋は大事なものだと思うので、バスを利用している方、利用していない方の意識を分析することも必要な事だと思う。 <p>(2) コミュニティ交通実証実験について</p>

《資料に基づき事務局が説明》

【内容】

厚木市では、日常生活で移動に不便を感じている方が利用できる地域コミュニティ交通システムの構築（短距離の移動手段）を目指している。さらに、コンパクト・プラス・ネットワークの実現のためにもコンパクトな移動システムが必要である。この実証実験は、本市の目指す将来の都市構造に適合した、厚木市らしい地域の移動システムについて検証することを目的に実施した。

実証実験で検証する内容は採算性・運行システム・移動ニーズである。

アンケート結果の特徴として、利用者アンケートについては、女性が84パーセント、65歳以上が89パーセント、希望する料金は100円と答えた方が70パーセントで、利用目的は「買い物」が67パーセントを占めている。地域居住者アンケートでは、65歳以上が61パーセント、地域コミュニティ交通が必要という意見は85パーセント、希望する移動先はトップ3がスーパーであり、運行システムは定時定路線型が圧倒的に多かった。

アンケート調査結果から、採算性については、今回の運行ケースで年間運行経費は630万円と試算した。運賃を100円とした場合の年間収入は84万円となり、546万円の赤字となる。運行システムについては、定時定路線型を望む声が多い。移動ニーズは、日中の買い物を希望する人が多く、荻野運動公園や厚木市立病院など運行エリア外のニーズもあった。

まとめとして、高齢者の買い物支援ニーズが一定程度ある。採算面では運賃以外の収入確保を検討する必要がある。定時定路線型で2つのルートに乗継ぎについては課題。買い物ニーズが多かったが、その他ニーズが多岐にわたるため、ニーズを絞った検証が必要である。

【主な意見】

・多摩ニュータウンでの自動運転バスの実証実験をニュースで知ったが、厚木市ではどのように考えているのか。

⇒まだ具体的に自動運転バスの話はない。しかし、市の交通政策を考える上でも、車両の自動化というのは視野には入れていく。

・買い物がメインの利用とのことだが、7便のうちコアな時間帯は何時位だったのか。

⇒多かったのは10時、11時で、お昼前後の時間帯に多い傾向がある。

・利用者アンケートの利用目的で「最寄りのバス停」が14人で、バ

スの乗換えはあまり見られないとのことであったが、このような地区にバス停の上屋を優先的に設置したり、バス運行時間に合わせたコミュニティ交通のダイヤを組んだり、またバス停の表示を大きくするなど取り組みをしていただきたい。

利用者の中で 20 歳未満とあるが、小学生や中学生は含まれるのか。
⇒路線バスへの乗継ぎが少なかったことについては、事前アピールが足りなかったと思っている。移動ニーズとして荻野運動公園や厚木市立病院があったが、これらの場所は路線バスに乗れば行ける場所である。今後は路線バスの運行時間に合わせるとか、目的地までの乗継案内等をアピールしながら実験していきたいと思う。

20 歳未満の内訳は把握できていない。

- ・祖父母の方々がお孫さんを連れて利用したケースはあったのか。
⇒子どもを抱っこして利用した方は何人かいた。
- ・お孫さんを連れて外出する機会が増えれば良いと思う。

- ・雨の日など天候による影響はあったか。

乗継ぎのニーズとしては、どのような場所に行きたいのか。

⇒実証実験期間中、雨の日は少なかったが、天候による影響はあまりなかった。乗継ぎのニーズとしては公民館に行きたいという意見があった。また隣のルート内のスーパーに行きたいなどの希望があるとあった。

(3) (仮称) 厚木市総合都市交通マスタープラン策定について

《資料に基づき事務局が説明》

【内容】

厚木市の交通特性を踏まえ各種交通モードによる市民の移動を快適にするための指針とするために、(仮称) 厚木市総合都市交通マスタープランを策定する。位置付けとしては都市マスタープランの分野別計画とする。構成は 1 章から 6 章で、主に道路交通、公共交通、中心市街地に関する 3 本柱について、それぞれの現状と課題、方針を立てていく。

2 章「現状と動向」及び 3 章「交通の課題」を資料 5 で説明

【主な意見】

- ・旭町 5 丁目から文化会館に通じる道がとても混む。国道 246 号の交差点の信号で車が止まってしまう。また、この道路は通学路で危険。高架にできないか。

⇒その道路の渋滞は認識している。ご指摘の道路は厚木環状 1 号線で、文化会館前交差点で国道 246 号と交差している。資料の道路整備の状況にも記載があるとおり、国道 246 号と交差する放射道路は

渋滞が発生し、混雑緩和を課題として挙げている。道路を高架にするなどのハード整備は時間と費用が掛かるので、信号機の時間の改善や走行車の経路変更促進、歩行者横断を他の方法に変えるなど、ソフト施策を推進し、その交差点の特性を踏まえた解決方法も考えていく必要がある。

(会長)

・渋滞解消の項目は必要だが、大事なことは子ども達の安全である。都市交通マスタープランにおいて安全というのは基本であり、子ども達の事故は減らない状況にある中で、通学路の安全は大きく取り上げて議論するとよいと思う。

国道に関する渋滞解消は簡単に解決しないのが実情であるが、神奈川県内でどの道路が混んでいるのか、国が主体的に調査をしている。国道 246 号は国交省直轄道路なので、そのようなデータがあるのか、現場調査をしているのか、また国がどのような認識をもっているのか確認するとよい。

・公共交通の課題の、公共交通不便地域におけるバス路線へのアクセス性の改善と、交通空白地域における交通サービスの改善というのは、どのような事を意味しているのか。

⇒バス停から半径 300 メートルの円を描いて、その円に入らない地域を公共交通空白地域とし、その円内であっても、例えば運行本数が極めて少ないなどの地域は公共交通不便地域と定義する。

公共交通不便地域においては、運行本数が多い路線を幹線とすると、そこへアクセスする枝線の交通のイメージで、幹線へのアクセスの改善と捉えていただきたい。また空白地域とは、そもそもバス停がない地域なので、その地域の特性を捉えて交通の確保をするという趣旨である。

(4) 地域公共交通確保維持改善事業について

《資料に基づき事務局が説明》

【内容】

平成 30 年度の地域公共交通確保維持改善事業（ユニバーサルデザインタクシー及びノンステップバス導入）の実施状況について結果の報告をし、確認がされた。

・タクシー協会としてユニバーサルデザインタクシーの導入は進めたいと思っているが、費用が通常車両の倍である。4 月以降増やしていくつもりであるが、補助金をお願いしたい。

⇒厚木市としてもユニバーサルデザインタクシーを積極的に導入し

	<p>たいと考えている。</p> <p>4 その他 ・バス事業者からの報告事項あり</p> <p>5 閉会 事務局</p>
--	---